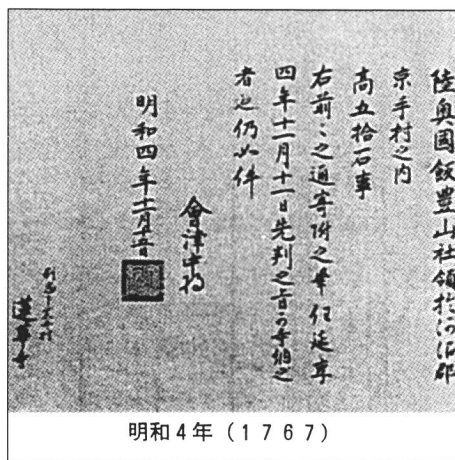


七 下荒井村に「五重の塔」

五重の塔というのは五層に造られた塔のことで、貞享二年（一六八五）の書き上げ帳によれば、

「昔、塔有、建立破壊の年曆不知、今、石場斗有」

とある。また新編会津風土記には「五重塔跡村北二十間ニアリ旧事雑考ニ或説ヲ引テ応安元年ニ供養セシト云今本郡南青木組北青木村惠倫寺ニ此村康寧山宝寿禪寺ノ鐘アリ康安二年壬寅仲呂日ト彫付アリ蓮華寺未ダ創建セザル以前既ニ寺アリシト見エ然レドモ来由詳ナラズ慶長十六年ノ地震ニ崩レシト云今田圃トナリ其字ヲ塔内ト稱ウ」と記してあるところからも、五重の塔が実在したことは事実である。



陸奥国飯豊山社領於河沼郡
京手村之内
高五拾石事
右毎々之通寄付之 任延亨
四年十一月十一日先判之旨可寺納之
者也仍如件

明和四年十一月十五日 印
会津中将

別当下荒井村
蓮花寺

八 宮ノ下八幡宮の修理棟札

宮の下村は、天文の頃まで下荒田村といい、古くから八幡神社があった。鎮座の年月明らかでないが、応永十年（一四〇三）に八幡宮を修理したという棟札が現在残されている。この棟札の裏には「会津西十二村内下荒田百姓同心造之」とある。これについて天文二十四年（一五五五）の棟札の表には「富田美作守藤原滋実花押」とある。この人は当時、下荒井城主で葦名四天王と呼ばれた葦名家重臣の一人である。昭和五十五年村の文化財に指定された。